令和３年度 英語教育改善プラン推進事業　～川越市立初雁中学校～

課題

新学習指導要領の趣旨を体現するために、「４技能５領域をバランスよく育成する英語教育」が必要である。そのために、従来の指導方法の見直し、新しい教科書についてのより深い教材研究が求められる。また、小学校と中学校、それぞれの指導の特性を理解しつつ、発達段階や学習状況を踏まえた指導を行わなければならない。さらに、ＧＩＧＡスクール構想によって１人１台端末が導入されたことを生かし、学習者用デジタル教科書の活用方法を模索する良い機会である。

具体的な取組と工夫

◎　本校英語科の重点目標
①　ICTを効果的に活用した授業の実践
②　言語活動の充実を目指した授業改善の推進
③　指導計画の作成と指導改善のための指導・評価サイクルの確立

○ 指導形態の工夫
本校の英語科教員の構成（5名）を生かし、第1・2学年の授業では全ての時間でティーム・ティーチング（T・T）とし、きめ細かな指導を行っている（週4時間中3時間を日本人教員同士のT・T、残りの1時間をAETとのT・T）。第3学年ではT・Tを実施していないが、担当教員（2名）それぞれの個性を生かしつつ、共通の教材を用いた綿密な打合せのもとに授業を展開している。

○ 定期的な英語部会の開催
時間割を調整し、毎週1回は英語部会を実施している。指導方法、評価方法等について話し合い、授業改善に生かしている。

○ 小・中学校合同研修の実施　　初雁中学校区4校夏季合同研修会
講師　東京国際大学言語コミュニケーション学部　松林　世志子　教授
演題　「小・中学校を通じた英語教育の強化」

○ ICTを効果的に活用した指導方法の工夫の例
Google Documentの音声入力機能を用いた、発音・音読練習
Google Documentで作文練習、Google Formsを利用した小テスト
カメラの動画撮影を利用したスピーチの発表　等
※ICTを活用しない授業においても、各学年の実態に合わせて工夫した帯活動を通して、英語力の底上げを図っている。

○ 学習者用デジタル教科書の活用
文部科学省「学習者用デジタル教科書普及促進事業」により、本校の生徒は現在、外国語(英語)のデジタル教科書を全生徒が3学年分（3冊分）使用することができる。効果的な活用方法等について研究を進めている。

○ GTECの活用（令和3年5月実施）
第1・2学年でGTEC Juniorを、第3学年でGTEC Coreを活用して、全生徒の4技能の力を測定し、分析した。結果は、全学年で全国平均を超えていた。課題はスピーキングにあることが分かった。

○ 小中学校との連携
英語科教員1名を校区内3校対象に兼務発令の申請をした。その3校を月1～2回訪問して小学校教員とのT・Tを行っている。指導方法の共通理解や、児童の実態把握を行っている（生徒指導推進事業とも兼ねている）。

成果

令和3年度埼玉県学力学習状況調査平均正答率
中学2年生
本校　62.1%　県 62.6%　学力の伸び率(前年度調査なし)
中学3年生
本校　61.2%　県 60.0%　学力の伸び率　78.0%
中学3年生GTECの結果から
CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒が41.1%いることが分かった。その後の授業の見取りや川越市中学生学力調査等の結果から、CEFR　A1レベル相当以上の英語力を有する生徒は50%を超えていると考えられる。

○GTECの結果分析を通して、生徒への指導方針を立てることができた。
○普段の授業の中で、4技能5領域をバランスよく育成する方法について、英語科教員が共有することができた。
○小学校の学習内容や指導方法について理解を深めることができた。
○小中連携の意義について再認識することができた。
○生徒が学習者用コンピュータの扱いに習熟し、学習効率が上がった。

課題及び改善案

①　小・中学校の連携をより強化していく必要がある。そのために、ICTも効果的に活用しながら、定期的に小・中合同の研修会を開催したり、小・中合同の授業研究会等を実施したりして、児童生徒の円滑な学びの接続ができるようにしていく。
②　学習者用デジタル教科書を使用することが目的化しないように、学習者用デジタル教科書の活用に適している場面を精選する必要がある。
③　研究に充てる時間を十分に確保するために、教材研究等を協力して行う等の工夫が必要である。